

後援者挨拶

橋本 昌

茨城県知事

ご紹介をいただきました茨城県知事の橋本です。本日、第4回内分泌攪乱化学物質問題に関する国際シンポジウムが、本県のつくば市において盛大に開催されることを心からお喜びを申し上げる次第です。この大会の開催ご尽力をいただきました、川口環境大臣をはじめ、鈴木学会長様、その他、関係者の皆様方に心から敬意を表する次第です。また、県内外、国内外からお集まりになられました皆様方を、心から歓迎を申し上げたいと思います。

茨城県は今、人口が300万人、農業粗生産額が全国47都道府県のうち第3番目、工業製品出荷額が9番目の県です。そしてこのつくば市には、研究者が約1万7000人、プロフェッサーがたぶん5000人ぐらい住んでおられるのではないかと考えております。こういった私どもの自然豊かな中での科学技術都市が今、順調に成長しているところですが、この周辺でも大変多くの環境問題があります。

例えば霞ヶ浦におきましては、大変水質の汚濁が進んでいます。しかも、これまでのように工場排水という原因は、もうその大多数を占めるといった状況ではありません。せいぜい4～5%という状況であり、残りの大部分は生活雑排水、あるいは面源負荷といったものになっております。こういったものについて、何とか少しでもいい方向にもっていけないかということで、さまざまな研究を進めています。しかし、例えば有機的な方法では窒素やリンがうまく取れないとか、あるいは電気分解については今、さまざまな実証実験をはじめたところで、この解決に精一杯取り組んでいきたいと思っています。また、霞ヶ浦環境センターを、平成16年の完成を目途に建設をしたいと思っています。

また、この近く新利根町に城取清掃工場というゴミ焼却施設がありますが、ここでちょうど所沢のダイオキシン問題のあと、平成10年にダイオキシンの大きな問題が発生しました。大阪のある大学の先生が、周辺に住んでおられる方の血液を検査したら、最大で四百数十pg、18人平均で約100pgのダイオキシンが検出されたという発表がなされました。私どももそれを聞き、第2の水俣にしてはいけないということで、国立環境研究所の先生方にもご指導をいただき、そこに長く住んでおられる方々や、長く生活しておられる方々120人を選び、約5700万円をかけて徹底した検査を行いました。そして日本だけでやったのではたぶん、いろいろと信用されない面も出てくるかもしれないということで、私どもの行った検査結果の確認のためドイツのエルゴ社に協力をいただき、そこでも検査をしました。その結果は、私どもで行った120人の平均値は9.7pgで、類似の焼却施設周辺の調査結果より低いものであります。

しかしその間、地元の住民がどれだけ心配したかということは大変なものがあります。いろいろと環境ホルモンに関しては、その数値をどう受け止めればいいのか、全貌そのものがなかなかわからないということもありますが、いろいろな数字が出されたときに、自分の血液中に、それだけのものが入っていると言われたとき、どうすればいいのか、なかなか対応方法がわからないなど、大変難しい問題があります。そういったことも含めて、これからこういった学会を通じて、新しい方向を見出しただけであれば、私ども住民として、大変ありがたいと思っています。

先程の城取清掃工場はすでに新しくなり、きちんとした基準を十分に下回る数値で操業を行っています。そしてまた、県においてもダイオキシンの分析室を作ったり、あるいはダイオキシンについての調査を毎年繰り返しておりますが、現在のところは特別に高い数値は出ていない状況です。しかし、先程も申し上げましたように、まだまだ環境ホルモンは科学的に未解明な分野が多いわけですから、これからはこういった国内外の第一線でご活躍をいただいております研究者の皆様方が一同に会され、なおいっそうの進展をご期待申し上げる次第です。特にこのつくばで開催されましたこのシンポジウムにおいて、大きな成果が得られたら大変うれしいことだと思っています。

このつくば市はご存知のように、日本では大変独特な地位を占めている地です。この町自身が視察の対象になってもいいのではないかと、私どもは思っているところですので、近くの筑波山、あるいは霞ヶ浦なども含

めて、滞在期間中はおゆっくりとお過ごしいただき、そしてまた大いに成果が上がることをご期待申し上げまして歓迎の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。